

孫の手通信

「玉川孫一郎と歩む会」 TEL 0475(42)1400



第4号

平成20年5月2日

私は町民党

玉川孫一郎

私の後援会の中には、いろいろな人がいます。自民党支持者も、民主党支持者も、公明党支持者も、共産党支持者も、旧社会党系の支持者も無党派の人もあります。私は、一宮町のように小さな町では、そこに住む人々が党派を超えて力をひとつに合わせなければ、新しいまちづくりはできないと思います。党派を超えて町民の協力を得るためには、町長は政党とは一定の距離を保つのが望ましいという考えをもっています。

私は町民党の立場を貫くために、どの政党にも推薦願いを提出いたしませんでした。もちろん議会で、どの党派の議員とも町を良くするために率直に話し合い、協力をお願いします。



(イラスト: by とも)

ブログ『孫の手通信』では、戸別訪問の状況や毎日の感想などを掲載しています。こちらもどうぞご覧下さい。

<http://magoichiro.blog47.fc2.com/>



孫一郎さんに問う

マネジメント・コンサルタント 川上孝子

茂原の借金は800億円だとの新聞記事がありました。合併していたら一宮町民にも返済の負担がかかってきて、夕張市のように住民サービスの低下や住民の負担増という事態になっていたのではないかと考えてしまいます。

国の政策の変化により、地方でできることは地方でという方針になり、国から地方自治体への補助金、助成金が大幅に減ってきている上、大幅な税収増加が見込めない地方自治体と、大都市圏のように豊かな財源のある自治体と格差ができてきている現状を考えると一宮はどうなのか心配です。

町長の給料カットや公用車の廃止で乗り切れるのでしょうか？ 役場の経費節減は必要だと思いますが、人減らしをすると住民サービスの低下につながります。なにか方法はあるのでしょうか？

どれだけの収入があり、何にどれだけ使ったのか、これからどれだけお金が必要なのか、住民の負担はどのようになるのか等、ある程度詳細な情報がないと、納得できません。

限られた財源なので、住民サービスも住民からの要望すべて実施できるとは思いませんし、優先順位がつけられても仕方がないと思いますが、どのような理由で優先順位がつけられたのかなどの情報公開がないと疑心暗鬼になってしまいます。この点はいかがでしょうか？

(新地在住)

Q & A

表面の川上孝子さんをはじめ、多くの皆さんからいただいた質問にお答えします。

行財政改革について

Q なぜいま行財政改革が必要なのですか。

A 国の財政危機を背景に国からの地方交付税や補助金が大幅に削減され、全国の市町村は、どこも苦しい財政状況です。

一宮町の平成一八年度の経常収支比率（どうしても必要な費用の割合）は、87・6%でした。これは、「町が町民のために自由に使えるお金は、残りの12・4%しかない」ことを表しています。

また、平成二〇年度の予算は、財政調整基金（貯金にあたるもの）からの大幅な取り崩しに頼るものとなっています。

豊かな自然の中で子供から高齢者まで安心して暮らせる町をめざして、子育て支援、教育、福祉、医療、産業の振興など多方面の施策に力を入れていくためには、役場の業務や組織を見直して、無駄な経費を削減し、財政基盤を強化する行財政改革は、どうしても避けて通れません。

Q 経費削減は必要だと思いますが、人減らしをすると住民サービスの低下につながるのでは。

A 私が昨年視察した子育て日本一といわれる長野県の下条村や、一年365日役場が開いている

福島県の矢祭町では、意識改革した職員が行財政改革に主体的に取り組み、少ない職員で非常に高い行政サービスを実施しています。

先進的な自治体や民間に学び、職員自らが夢とやりがいをもって働ける環境づくりと仕組みづくりに取り組み、慎重かつ大胆な改革を実施します。

町役場のこと

Q 住民の悩みや要望をしっかりと受け止め、行動する町役場を具体的にどうつくるのですか。

A¹ 町の主人公は住民です。町役場のために住民がいるのではなく、住民のために町役場があるのです。まずこの原点に立ち戻り、いつも笑顔で住民に親切に対応する町役場をめざします。

A² 町長が出かけていって話しを聞く町長懇談会や町長室開放日などの制度をつくりまします。町長が先頭に立って、つねに住民と向かい合い、住民の声に耳を傾け、ともに歩む町役場をめざします。

Q 新しく設置する「市民活動支援室」は、何をするとこころですか。

A 一宮町には、町づくりに熱意やアイデアをお持ちの方がたくさんおられます。こうした皆さんに町づくりに積極的に参加していただくため、町づくりに関わる住民の活動を支援し、応援します。

- ・個人や団体のボランティアを登録します。
- ・町づくり活動を行う団体を応援します。

・町づくり提案事業を募り、公募住民による「町づくり委員会」の審査を経て、経費の一部を助成します。

情報公開について

Q どういう情報を、どういう方法で公開するのですか。

A 北海道ニセコ町では毎年、中学生でも読めばわかるような「予算説明書」をつくり、全戸に配布しています。ここでは、町に都合の良いことだけでなく、悪い部分も隠さず公表しています。

こうした先例に見習って、一宮町でも全戸に「予算説明書」を配布して、町の財政状況や、皆さんが支払った税金の使い道などを詳しくお知らせします。

とくに、町長報酬の減額分を「何に、どう使うか」ということは、明瞭に町民の皆さんにお知らせいたします。



(イラスト: by とも)